

The 25th International Symposium on Transport Phenomena (ISTP-25) 報告
 Report on the 25th International Symposium on Transport Phenomena

矢吹 智英 (九州工業大学)

Tomohide YABUKI (Kyushu Institute of Technology)

e-mail: yabuki@mech.kyutech.ac.jp

1. はじめに

2014年11月4日から7日までの4日間にわたってタイのクラブにある Aonang Villa Resort で The 25th International Symposium on Transport Phenomena (ISTP-25) が開催されました。議長はタイの KMITL の Charoenphonphanich 先生が、副議長は東工大の花村先生が務められました。ISTP はシンポジウム名の和訳から想像されるとおり、輸送現象に関わる幅広い研究発表を対象としています。また、PCTFE (Pacific Center of Thermal-Fluids Engineering) が主催する五つの国際会議の一つで、世界中の国々を開催国とし、一昨年の第24回会議は山口県の山口東京理科大学で開催されました。クラブはタイの南部に位置するビーチリゾート地であり、バンコクから空路で約1時間半の場所にあります。出発直前の天気予報では開催期間中、雨天が予報されておりましたが、時折通り雨に見舞われたものの幸運にも好天に恵まれ、海に近いリゾートホテルで開催された学会で有意義な時間を過ごすことができました。

2. 会議の概要

会期四日間のうち初日はレジストレーションに充てられ、残りの三日間で学会発表が行われました。一般セッションに先駆けてプレナリー講演セッションが開かれ、日本、タイ、米国からそれぞれ一件ずつ、相変化伝熱、燃焼、電子機器の熱マネジメントに関する内容の講演がなされました(表1)。図1はプレナリー講演セッション時の会場の様子です。

表2に二日目の午後から始まった一般セッションのセッション名と講演件数、表3に所属の所在国ごとの論文筆頭著者の数をまとめました。図2は会場のホテルの玄関で撮影された学会参加者の集合写真です。講演件数は合計131件で、セッション名を眺めますと、伝熱シンポジウムと同様に

表1 プレナリー講演一覧

講演者名 (Prof. 省略)	講演タイトル
Y. Utaka	Behaviors of micro-liquid-film and their contributions concerning phase change heat transfer
S. Jugjai	Combustion in Porous Media: Research through innovation
Y. Joshi	Air Flow Management in Raised Floor Data Centers



図1 プレナリー講演時の会場の様子[1]

表2 セッション名と各セッションの講演件数

セッション名	件数
Experimental and Computational Fluid Dynamics I-VI	27
Heat and Mass Transfer I-V	23
Micro- and Nano-Scale Transport I-III	20
Electronics Packaging and Thermal Management I & II	10
Boiling and Multi-phase flow I & II	10
Sustainable and Renewable Energy I & II	9
Visualization / Imaging Techniques I & II	9
Bioengineering and Bio-Thermal Fluid Dynamics	5
Combustion and Reacting Flows	5
Fuel Cells and Battery Technology	5
Heat Exchangers	4
Transport in Porous Media	4
合計	131

表3 国別の論文数

国名	人数	国名	人数
Japan	87	USA	2
Thailand	9	Czech Republic	1
Korea	8	Germany	1
Taiwan	5	Indonesia	1
Russia	5	Iran	1
China	3	Malaysia	1
France	3	Saudi Arabia	1
Australia	2	Ukraine	1

幅広いスケールの多岐にわたる分野の研究発表があったことが分かります。日本のグループからの研究発表が87件と一番多く、地元タイのグループから二番面に多い9件の発表がありました。日本から参加した講演者数が圧倒的に多いものの、リゾート地での開催ということも手伝ってか、欧米や中東など世界各地からも講演者が参加していることが分かります。ISTPは日本からの参加者が多く、発表・議論が日本人にとっては比較的聞き取りやすい英語で行われ、心配であった初めての座長も無事に務め上げることができました。

休憩時間にはコーヒーやフルーツジュースなどのドリンクに加え、ドラゴンフルーツやパイナップルなどの果物が用意され、昼食では会場のホテルにてビュッフェスタイルでタイ料理中心のメニューがふるまわれました。

本会議では、サイズが東西、南北それぞれ1kmに満たないホン島 (Hong Island) に2, 3時間滞在中のツアーが企画され、参加者はビーチで泳いだり、日光浴をするなどして大自然を満喫しました。



図2 ISTP-25 参加者の集合写真。タイ、クラブの Aonang Villa Resort 玄関にて[1]

著者は明石高専の田中先生と東北大学の岡島先生と三人で島の周囲を一周するシーカヤックに挑戦しました。不覚にも島のサイズを推し量らずに挑んだ島一周の旅は肉体的にも精神的にも過酷なものでした。今になっては良い思い出です。後から出発した私の研究室の学生のチームは転覆して途中で引き返す羽目になり、島一周を果たせませんでした。

会議最終日の次の日には東京で熱工学コンファレンスが開催されるため、参加者の多くが深夜便などを利用してすぐに東京へ帰国しなければなりませんでした。クラブで得られた充足感をバネに過密スケジュールをなんとか乗り越えられました。

3. おわりに

本稿では ISTP-25 の Facebook アカウント (<https://www.facebook.com/istp25>) より写真を転載させていただきました。学会参加者の様子を撮影した写真が多数アップされているので、ご興味ある方はご覧になってください。次回の第26回会議はオーストリアのレオーベンにて9月27日から10月1日の会期で開催されます。

最後に、ISTP-26の成功を願うとともに、ISTP-25の運営に携わってくださった方々に感謝の意を表します。

参考文献

- [1] ISTP-25, Facebook アカウントより転載, URL: <https://www.facebook.com/istp25>.